2023
野洲市教育研究所だより
No.20
2023.12.15

５年目スキルアップ研修

１１月２１日（火）に、県総合教育センターの髙橋利彰主査に来ていただき、野洲小学校で代表者授業・協議会を行いました。直接授業についてご指導いただけることは貴重な体験となります。また、参観し協議会で意見交流することで、授業の見方（授業づくりのポイント）が分かってきます。

これで、小中学校の５年目スキルアップ研修の対象となっている８人の先生方の研究授業が全て終わりました。２学期の研究授業での成果と課題の要約を以下に示します。

成果

- 授業をしっかりやりたいという思いが感じられます。
- チャイムと同時に授業がスタートします。
- 前時の学習を踏まえて、本時の学習の導入（課題）に入れています。
- 学習の流れが分かる表示を行いスモールステップで安心感と達成感を持たせています。
- 学習内容に関わる子どものつぶやきを拾っています。
- 発問、指示が端的になされています。
- ペアやグループ学習では、何のために話し合うのかを明確にしています。
- 個別最適な学びになるよう ICT 等の視覚的支援や操作活動を取り入れています。
- 板書により学びの記録から新しい気付きや課題を見付ける学習構成を考えています。
- 子どものよい点を他の子どもに伝えています。　etc.

課題

- 学習課題が子どもの主体的な学習を促すものになっていないことがあります。
- 教師の資料・教具の吟味が不十分なところがあったり、量が多すぎたりします。
- 教師の手立てが学習課題を解決するためになっていないことがあります。
- 多種の活動を個別に同時に行うため、十分な見取りができないことがあります。
- 子どもに発言させるとき、教師との１対１のやり取りになっていることがあります。
- 子どもが意見交流したことで、自分の考えが変わったと実感できるためには最初の考えを明確にさせておく必要があります。
- グループ発表後どのようにまとめていくのかが明確になっていなかったり、発表して終わりになっていたりしています。
- 子どもに発言させるべきことを教師が言ってしまうことがあります。
- 板書で抑えたいポイントが不明瞭なままのときがあります。
- 学習課題（めあて）に対する振り返りがなされていないことがあります。　etc.

８人の先生方は、真摯に授業づくりに取り組まれました。上記の成果と課題をこれからの授業づくりに生かしていただければと考えます。

８人の先生方は、１学期にモデルの先生方の授業を参観し、公開授業を行うことで、自分の授業を見つめ直すという作業を行いました。そこから、研究主題を考え、研究論文の書き方講座(講師：県総合教育センター主幹）で、「研究の進め方」について学びました。

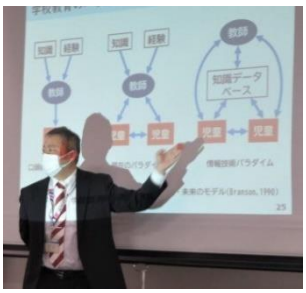
研究授業⇒研究会⇒論文仕上げという流れで、今後、授業実践の成果と課題をまとめていきます。年明けの１月１２日(金)が締め切りです。

教職員は多忙ですが、それでも指導力（授業力）をつけたいという熱い気持ちを持ち、自分の授業実践をふりかえり、まとめることで、これから長く続く教職員生活の力と自信になっていくのだと思います。書くことで考えが整理され、次に生かせることになります。

研究奨励事業に関しては、小中学校の先生方だけでなく、保育園・幼稚園・こども園の先生方も応募されており、保育実践を研究論文にまとめていかれます。

今年度は、園・小・中、合わせて、総勢１９人です。先生方の最後の頑張りに敬意を払います。

「５年目スキルアップ研修」　代表者研究授業・協議会の様子



個に返す時間を意識した授業をしていきたい

疑問から始まる学習にも取り組んでいきたい

まなび野洲チャレンジ！　4

正しい答えの番号はどれでしょう。答えは最下段に載せいています。

兵主大社の境内への入口には、県の有形文化財に指定されている朱塗りの楼門があります。

この楼門を寄進（寄付）したと伝えられる武将はだれですか？

①織田信長　　②足利尊氏　　③源頼朝　　④平清盛

養護教諭の増員・・・

学校の保健室は「体と心の健康管理センター」です。その運営を担っているのが、養護教諭です。管理職と綿密に連絡を取り合い、校医の助言を受けながら、原則一人で任務を遂行しています。

子どもがけがをしたり熱を出したりしたときには、応急的な治療や処置をします。病院にも連れて行きます。校外学習や宿泊行事では引率をすることもあります。その日は保健室が留守になります。不登校ぎみの子どもや悩みを持つ子どもの相談にものります。保健室は子どもたちにとって安心できる居場所です。教職員の健康状態にも気を配ります。校内において養護教諭は極めて重要な役割を果たしており、１人の配置ではあまりにも孤独で負担が大きいのが現状です。

教員採用試験の競争率は全国的に低下し、東京都の小学校においては、今年度 1.1 倍となり、辞退者を想定するとほぼ全員採用される状況で、質の低下が危惧されています。一方、養護教諭の倍率は、それに反し高い状況で、人気のある職種といえます。より熱意のある才能に恵まれた人材を採用できるチャンスなのです。学校規模によりますが、学校に２人の養護教諭を配置することは、現状を鑑みて、喫緊の課題といえます。定数改善・自主財源の活用を含めた増員の検討を国と地方自治体は積極的に進めていくときに来ているのではないでしょうか。

まなび野洲チャレンジ答え　②